

2023.5.28 (日) シンポジウム「いらんっちゃんない？校則」の報告書



校則について考えるシンポジウム「いらんっちゃんない？校則」(福岡県弁護士会主催)が5月28日(日)、福岡市であった。校則の見直しが進む中、パネリストらは学校によって見直しにばらつきがあると指摘。「必要性を根本から検討し、子どもの

権利についての学びも深めるべきだ」などと求めた。校則問題などに詳しい内田良・名古屋大教授が「教育という病 学校は子どもをまもっているか」のタイトルで基調講演。本会の志賀美代子代表も参加し、不登校生の保護者から見た校則の在り方などを報告した。

校則について考えるシンポジウム「いらんっちゃんない？校則」(県弁護士会主催)が28日、福岡市であった。写真。校則の見直しが進む中、登壇した専門家は学校によって見直しにばらつきがあると指摘。必要性を根本から検討し、子どもの権利についての学びも深めるべきだ」などと求めた。

県弁護士会によると、校則は靴下や下着を複数の色から選択できるようにするなど見直されたが、佐川民弁護士は「選択肢を増やしただけで、生徒指導は以前と変わらないのでは」。校則が子どもの人権を制限するとの認識が不足しているとし「合理的理由がなければ合理的理由がなければ廃止を」

福岡市で校則テーマにシンポジウム

「地域社会と一緒に見守って」

西日本新聞 2023.5.29 朝刊
ふくおか都市圏版より抜粋

登壇した名古屋大の内田良教授(教育社会学)は厳しい校則が続く背景に、地域住民が校外での児童生徒の行動に関しても管理を学校に求める「学校依存社会」になっていると分析。結果的に学校に厳しいルールを押し付けているとし、「学校が全てを抱え込むのではなく、専門家や地域社会と一緒に見守ることが必要」と語った。(小林稔子)

5/28 校則 シンポジウムに参加して 志賀美代子

学校のこれからの在り方を考える機会になった。

子どもにとっての校則とは何か。

子どもが自由に話せる(学校など)環境も最も必要がある。

教師も昔にとらわれず(校則など)子どもを信じてほしい。

校則が不登校になった原因とは一概には言えないが、要因になる可能性も高いと感じた。

親の会という話せる場がある大切さを感じる。



(1)基調講演

内田良さん(名古屋大学教授)

「教育という病 学校は子どもをまもっているか」

講演抜粋

○リスクが大きいほど感動が大きくなる。

転げ落ちる人も多い。リスクを考えることが現場に必要。考えて安全に配慮すればできるこ

とが増える。きょういくをめざす

○校則は厳しくなっている。力で抑圧する傾向は学校の不安の表れ。

○意識：校則は守るべきだし保護者の関心は薄い。

○子どもの個性を数値化し評価する。がんじがらめになっている。態度そのものを評価する。

○学校が評価するのではなく社会での評価。学校が学校以外までルール化して先生が評価する。学校の外まで指導するようになった。地域からもそれを学校に求めてくる。

○学校はだれを守るのか。地域社会のクレームを守っている。学校依存社会。

○体罰は首にならない。そこに教育的意味がついてくると生徒のためという教育なのだから。校則も同じようなところがある。

○教育の名のもとに外部を拒絶して自分たちの中で解決する傾向。外部の専門家の声を入れる。

○不登校生が学校から離脱し加害者が居残る形。本来は加害者がオルタナティブの教育になり被害者が残る形を求める。

○本音ではでは出席停止でも組織としては抱えていかざるを得ない。

○」学校のゼロトレランス。学校は呼応きょう空間。

○服装を自由化したら何か起こったか。コロナ禍での壮大な実験。何も起きなかった。そのまま自由でいい。

○80年代の子どもは外に攻撃。今の子どもは離脱する。教員が全て抱えすぎる。

○何のための校則。明文化さえされていないものも多い。不思議系のルール。意外と必要性がない。必要と思いついでいる。とにかくルールがあることが必要で、見た目でしかることができて掌に載せていくことが必要。生徒が変わることより先生（権力者）が変わることが必要。

○子どもは頑張っているのに大人の姿勢は何だろう。

○制服がいるという先生は校則を緩くすると指導することが増えると考え。一方で校則をなくしても指導は増えないという先生もいる。見えている世界が違う。先生の中でも考えが違う。

○制服改革をジェンダーレス化で始めたが・・・。

○校則を変えても先生の指導でどうでもなる。ルールを作って叱りつけるのが拘束の本質。

○25年前とある市において教師の服装を制服化しようとして先生が反対した。家庭の過ごし方から服装まで決められるが自分事と先生が考えるとおかしいことがわかる。

(2)校則見直しに関する意見書報告 佐川民弁護士

(3)パネルディスカッション

- ・内田良さん ・志賀美代子さん（ぼちぼちの会（不登校生の保護者の会）代表）
- ・大津圭介さん（春日市立春日西中学校校長） ・佐川民さん（弁護士）
- ・柳優香さん（弁護士）（コーディネーター）



パネル抜粋

○春日南中の取り組み報告(大津) ○親の会の報告(志賀) ○新宮東中の報告(佐川)

内田：1 今あるものを緩和、薄める。2, 新しくゼロから作る。の2種類がある。

生徒は当初、動きが鈍いので、大人が先に進めることも必要。学校から教員指導などで積極的に変えていくことが大切。

春日南中のやり方で教員主導で提案をし、話し合いを進め子どもの意見を聞きながら話をすすめる。心配をする教員に対しては、その校則が合理的か、説明できるかを問う。生徒のほうから規制がかかることもあった。

佐川：校則を変えて生徒はほとんど変わっていない。一番変わったのは教員。考えさせるような指導になった。地域や保護者も好意的に受け入れている。

内田：緩くして何かトラブルがあったとき、学校は地域住民のクレームが怖い。地域の声が難しいのでは。学校の立場を教員が共通理解をしていても地域の理解が得られるだろうか。

大津：コミュニティスクールなので会議で理解してもらう。

司会：校則で不登校になった生徒がいるか。

志賀：生徒が叱られている他の生徒への声に敏感になって学校に行きにくくなった生徒もいる。転校生から福岡の校則が厳しくてカルチャーショックから不登校という例もある。先生に行っても話を聞いてもらえない。制服を着たくない。

司会：子どもの声を聴く取り組みは。

大津：十分聞く機会は少なかった。

佐川：子ども自身が自分の意見を言うのは結構難しい。子どもの声を聴くことは難しい。

内田：生徒が一番保守的かもしれない。声を聴くというのは難しい。どこかで誰かが動かさないといけない。どの段階で子供の声を聴いたらいいのか難しい。

司会：春日市のようにガイドラインを作るのはいい。

佐川：校則改廃の手続きを明文化することが大切。校則を生徒自身の手で改廃できる保証を確保する。

内田：校則を守らないときのペナルティー。弁護士としてどう思う。合理的な拘束。

佐川：不利益処分。の裁判例はあります。規則を定めればペナルティーがある。教育を受ける権利が侵害される。合理的拘束の意味はそこにある。子どもの権利との関係。まずは教職員が子供の権利条約を学ぶ必要がある。

内田：コロナの中で変わったことは、学生に声をかけるようになった。子どもが何を考えているかを知ることから子どもの人権を大切にしていける。



終わりの言葉

実は、校則の定義や概念が明確ではない。子どもを縛り指導することが目的になってしまっているのではないか。

教育という病
学校は子どもをまもっているか

熱中症 リスクは無視 感染症

リスクは無視
熱中症: 気温、湿度、日射量、活動量、服装、水分補給
感染症: 集団生活、換気、消毒、マスク着用

リスクは有用
熱中症: 水分補給、涼しい場所へ移動、着替え
感染症: 手洗い、マスク着用、消毒

YAHOO! ニュース
表紙掲載 死なせた生徒もいた...「マスク」が新しいいじめの被害者 (改題) の事実

1980~90年代前半 **2000年代以降**

攻撃性を力で抑圧する **個性を隅々まで抑圧する**

生徒はおとなくなったけど、厳しく細かい校則が継続・拡大した理由

- 管理を手放すことの怖れ。
- 学校外(保護者・地域住民など)の発言力の高まり。教師の権威の低下。
→ 学校の巨額を意欲する 見た目の統制=「ちゃんと指導しています」
- 生徒のあらゆる側面が、内申書を通じて評価される。

テストのスコア + 外内(早欠日) + 内内(意欲、関心)まで... + 補習後(部活動)まで...

学校依存社会

【独立行政法人日本スポーツ振興センター】
選手権...学校の管理下
社会教職の一環としての実務教育。責任の所在ではない。選手権...「各大学団体の選手権の責任は誰が負うのか」

4時50分入校
授業が始まる前に終わる授業
外出X
外出X

授業中の「4時間ルール」見直し。県教委が指示

Restau
HAMBURGER

学校依存社会

部分全体の所属割合 (2013-2017年度)

体罰 部分全体の所属割合 0.0%

免職以外 100.0%

免職以外 47.3% 免職 52.7%

免職以外 44.0% 免職 56.0%

学校ハラスメント

子ども虐待 安心できない

NHK (ドキュメント) 暴力教師

「聞かれても黙れない」
実質的なものだけでなく、何層も何層も障り返し、暴力を交えている教師の実態が明らかになりました。

学校の上司や保護者の目を気にする教師。エスカレートする生徒。教師を追い詰めているものは？
情報・ご意見募集中...
nhk.or.jp/gendai/request...

生放逐で校長が特捜
「学校で起こったことは、学校が解決すべき」
「警察の力を借りれば、学校の負け、教師の負け」

YAHOO! ニュース
教師への暴力 警察逮捕にためらい 閉ざされた学校の闇に迫る

AERA dot.

★高校生の私服は、意外と平凡
★もともと私服はもっている

- とにかく高い。一式8~9万円
- 不衛生
- トランスジェンダーの生徒
- 感覚過敏の生徒

(公立中学の制服価格例)

ブレザーセット	30,000	ブレザー+スカート	37,000
ブレザー+スカート	17,700	ブレザー+スカート	4,000
ブレザー	8,700	スカート	1,300
ブレザー	800	スカート	1,300
ブラウス	3,300	スカート	1,300

合計 90,507円 (税込) 合計 90,502円 (税込)

AERA 2021年3月15日掲載

YAHOO! ニュース
【特報】私服の「私服率」 突出して全国1位 内閣府 全国一編成二校の学校 (掲載)

都道府県立高校の「私服率」
長野 50%
高城 26%
77年度20%

制服をなくすと生徒が乱れる...? 学校が荒れる...?

旧通学区ごとに 見ると...

私服率 39%
制服率 33%
博多 6%

【2021年12月発売】(¥1980)
河崎仁志・斉藤ひでみ・内田良『校則改革』東洋館出版社

「理不尽校則」を「押し付けるのはもうできない」

河崎仁志 斉藤ひでみ 内田良

校則改革

理不尽な生徒指導に苦しむ教師たちの実践

本書コラム執筆者一覧
大津邦彦 (教育学者、後援会 (伊藤士)、西郷孝彦 (元河内郡立丘中学校校長)
真下麻菜子 (伊藤士)、室橋純良 (日本若者協議会代表理事)、吉川陽基 (NHK記者)

いじめ加害者にどう対応するか
処罰と被害者優先のケア

青森 環 内田 良

被害者が居続けられない
学校であってはならない

【2022年7月発売】
青森環・内田良『いじめ加害者にどう対応するか- 処罰と被害者優先のケア』岩波書店 (¥572)



福岡県弁護士会は、2021年2月、中学校校則の見直しを求める意見書を発表し、これからの校則についてシンポジウムを行いました。その後、福岡県内の中学校では、校則の見直しが行われました。しかし、校則見直し手続への生徒の関与は学校ごとでばらつきがあり、見直し後の校則を見ても、選択できる靴下の色が1色から複数色に増えたというものから、靴の色指定を廃止したもので大きな差が生じています。その背景には、学校において子どもの権利の学びが進んでおらず、校則と子どもの権利の関係について議論がなされてこなかったことがあります。本シンポジウムでは、福岡県内の中学校での校則見直しの課程について具体的に報告し、学校が子どもとどう向き合ってきたのか、学校での子どもの権利の保障の状況について確認して、校則の必要性についてあらためて考えていきたいと思えます。

その後、福岡県内の中学校では、校則の見直しが行われました。しかし、校則見直し手続への生徒の関与は学校ごとでばらつきがあり、見直し後の校則を見ても、選択できる靴下の色が1色から複数色に増えたというものから、靴の色指定を廃止したもので大きな差が生じています。その背景には、学校において子どもの権利の学びが進んでおらず、校則と子どもの権利の関係について議論がなされてこなかったことがあります。本シンポジウムでは、福岡県内の中学校での校則見直しの課程について具体的に報告し、学校が子どもとどう向き合ってきたのか、学校での子どもの権利の保障の状況について確認して、校則の必要性についてあらためて考えていきたいと思えます。

1 開催要領

- 日 時 2023年5月28日(日) 13:30~16:00 ※①13:00~開場予定
- 場 所 ①福岡県弁護士会館2階大ホール(福岡市中央区六本松4-2-5)
②オンライン(Zoom ウェビナー)
- 主 催 福岡県弁護士会
- 参加費 無料
- 申 込 不要